

## マツダ、キュポラ溶解炉における全量バイオマス燃料での 実証操業を実施

-化石燃料を使用しないカーボンニュートラル操業に地域一体で挑む-

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、本社工場に設置されている鑄造の基幹設備であるキュポラ溶解炉(以下、キュポラ)において、燃焼時に CO<sub>2</sub> を排出する化石燃料から、カーボンニュートラル(以下、CN)なバイオマス燃料であるヤシ殻由来のバイオ成型炭に全量転換する実証実験を実施し、安定的な操業が確認できたことを発表しました。

100%バイオマス燃料によるキュポラの操業は、世界的に社会実装が確認されておらず、このたび鑄造業界および地域パートナーとの連携により実証実験に挑戦しました。今後、地域連携の輪を拡げ、地産地消エネルギー循環スキームの構築などを進め、2030 年度までにバイオ成型炭などバイオマス廃棄物由来の燃料によるキュポラの CN 操業を目指します。



地産地消エネルギー循環スキームイメージ図



ヤシ殻由来のバイオ成型炭

マツダは 2050 年のサプライチェーン全体における CN に向けて、2035 年にグローバル自社工場での CN を実現するために、「省エネルギーの取り組み」「再生可能エネルギーの導入」「CN 燃料の導入等」の三本柱で各種取り組みを進めています。

「CN 燃料の導入等」の取り組みの一つであるバイオマス燃料への全量転換の実用化に向けては、原材料の国内での安定調達がかかせません。マツダは、2023 年 3 月に有志企業・団体を募り「キュポラ CN 共創ワーキンググループ」を設立し、バイオマス燃料化の開発研究や製造法の確立および、原料の地場調達に関する調査を行ってきました。今回の実証実験ではヤシ殻由来のバイオ成型炭を使用しましたが、マツダは、地場産業活性化と地域貢献を目指して、広島近隣のバイオマスの廃棄物収集から製造までの地産地消エネルギー循環スキームの構築に向けた活動を進めています。その一環として、2024 年 11 月より、マツダ本社内のタリーズコーヒーショップ<sup>1</sup> および自動販売機<sup>2</sup> からコーヒー抽出後の豆殻を収集し、その豆殻からバイオ成型炭の製造が可能なことを実証実験で確認しています。

今後、原材料の安定調達と燃料化実装の実現に向け、地産地消エネルギー循環スキームを産官学民が協力し合う取り組みに発展させ、地域一体で取り組んでいきます。

マツダは、地域とともに 2050 年のサプライチェーン全体での CN に向け着実に挑戦を進め、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

【キュポラ用バイオマス原材料や燃料化技術に関するお問い合わせ】

技術本部 パワートレイン技術部 [cupola-cn-info@mazda.co.jp](mailto:cupola-cn-info@mazda.co.jp)

【報道関係者様は以下にお問い合わせください】

マツダ株式会社 メディアリレーション部 [mazda\\_pr\\_c@mazda.co.jp](mailto:mazda_pr_c@mazda.co.jp)

以上

---

\*1 加盟店:株式会社キュール、本部:タリーズコーヒージャパン株式会社

\*2 運営元:株式会社アベックス西日本